Q どうする？ 家庭での性教育

「本を通して考える、男の子と性の問題」

国は、性犯罪・性暴力対策の集中強化期間の取組として、子供を性暴力の加害者・被害者・傍観者にしないための教育を導入する予定です。

そこで今回は、太田啓子さんによる著書『これからの男の子たちへ　「男らしさ」から自由になるためのレッスン』(大月書店)より性暴力に関する記述を取り上げ、男の子を性暴力加害者にしないためにはどのように育てれば良いのかという観点から、家庭での性教育について考えます。

男子を育てる弁護士が、子育ての中で感じるジェンダー・バイアスや「男の子問題」、性の話などを綴った子育て論。

有害な男らしさの影響

「社会から性差別をなくすために、男の子の育て方こそが大切じゃないの？」というテーマを考えるきっかけになってほしい―。そんな本書を読み、男子にはよくあることで済ませていた行動に、多くの問題が隠れていることに気付かされました。

その一つが、スカートめくり。昔は単なる男子の悪ふざけだと思っていましたが、下着を見るという性的な意味合いが強い、性暴力の一種だったのです。

著者は、こうした他者への暴力的なふるまいの萌芽がある行動をとった場合でも、大人が「男子あるある」として受け流してしまい、その積み重ねが、大人になってからの男性たちが他人や自分自身の痛みに気付けない鈍感さといった「有害な男らしさ」の遠因になっているかもしれないと危惧しています。

「有害な男らしさ」

アメリカの心理学者が提唱した言葉。社会の中で「男らしさ」として当然視、賞賛され、男性が無自覚のうちにそうなるよう仕向けられる特性の中に、暴力や性差別的な言動につながったり、自身を大切にできなくさせたりする有害な性質がこめられている、という指摘を表現したもの。

性暴力をなくすために男の子をどう育てるか

被害者が男女どちらの場合でも、性暴力加害者の圧倒的多数は男性という統計があります。こうした現状に対して著者は、現在の性差別構造を持つ社会で、男性に刷り込まれる「有害な男らしさ」の中に、「男性は女性より性的に優位に立つべきだ」といった性暴力加害者になりやすいバイアスが潜んでおり、そうした「男らしさ」の規範を無理にでも実行しようとしたとき、一部の男性が性暴力行為に走ってしまうのではないか。だとすれば、そうした「有害な男らしさ」の芽を注意深く取り除き、女性を人として尊重し、対等な関係を築けるよう意識して男の子を育てるという視点が、社会から性暴力をなくすためには必要だと書いています。

我が家の性教育を考える

性暴力という行為がどれほど人の心を傷つけるか。こうしたことを子供に伝えるためにも、大人が性や性暴力について子供と一緒に学び、向き合うときがきたのではないかと思います。

例えば、家庭内での子供とのコミュニケーションを大切にして信頼関係を築き、性に関する会話がオープンにできるような環境を作り、暴力的なアダルトコンテンツからではなく、正しい情報提供や意見交換を子供と行えるようにする。また、子供の暮らしの中から少しでも性差別的な要素を減らせるように大人が学び、声を上げることで、「わが子を差別的な男性にさせないこと」にかえられるのではないでしょうか。

学校では十分な知識が教えられず、家庭では正しい知識が伝えられず、間違った知識を身につけたことで、子供が性暴力の加害者・被害者・傍観者になってしまうような社会にしないためにも、性教育がもっと身近なものになってほしいと感じました。

『少女だった私に起きた、電車のなかでのすべてについて』
佐々木くみ、エマニュエル・アルノー著
イースト・プレス

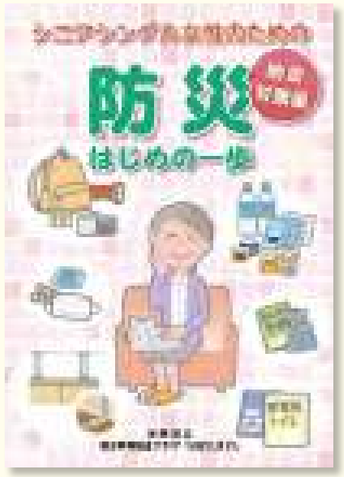
痴漢被害者の実体験をもとにした小説。
性暴力被害者の手記や子供向けの性教育の本・マンガはいろいろでている。

トピック

作成しました

シニアシングル女性のための 防災 はじめの一歩

地震対策編



新型コロナウイルスの感染リスクが高まる今、大災害が発生したら…。
この冊子では、ひとり暮らしのシニア女性が、災害時に自分の身を守り、被災生活を送る上で役に立つ基本的な情報を紹介しています。
まずは、できることから、あなたにあった防災を！
ぜひご活用ください。

被災生活で気を付けたい健康トラブル

在宅避難に備える備蓄品リスト

日頃の備え あれこれ

家の安全対策

地震がおきたらどう行動する？

防災対策には、女性や高齢者など多様な視点が必要です。

配布場所
- ○男女平等推進プラザ（生涯学習センター４階）
- ○区内各施設
- ○区のホームページでも掲載しています。

備えて安心

過去の大震災では、多くのシニア世代が犠牲に…

■阪神・淡路大震災における死者・行方不明者　およそ６割が 60 歳以上
■東日本大震災における死者・行方不明者　およそ２／３が 60 歳以上
■死者数はいずれの震災も女性の方が男性に比べ1000人程度多く、女性で高齢者の割合が高い。

※『男女共同参画白書（平成 24 年版）』　内閣府男女共同参画局編

「はばたき21」情報コーナーおすすめ図書案内

『さよなら、俺たち』
清田 隆之(桃山商事)著
スタンド・ブックス

自分と向き合い、他者と向き合うため、私は「俺たち」にさよならして、「私」という個人になる必要がある。失恋、家事、性的同意など様々なテーマに根づく男性問題をほりさげたエッセイ集

『女性の世界地図 女たちの経験・現在地・これから』
ジョニー・シーガー著　中澤 高志　他訳
明石書店

仕事、教育、健康、衛生など様々なデータをグラフや地図で「見える化」し、世界のジェンダー格差の存在を一目瞭然にした本

『被災したあなたを助けるお金とくらしの話』
岡本　正 著
弘文社

自然災害で大きな被害を受けたとしても、絶望することなく、前をむいて最初の一歩を踏み出すための法律の知識を備えてほしいと筆者が願って作った防災の本